

(様式第1号)

平成30年 月 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 福祉用具と住環境に関する領域

科 目 名 : 福祉用具と住環境

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒514-0003

三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館2階

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会 印

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書(別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 月 日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名 申請責任者氏名	認定介護福祉士養成研修担当 森 聖志
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131 Tel : (059)-(264)-(7741) Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : 福祉用具と住環境に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 複素用具と住環境(2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	福祉用具と住環境に関する領域	
科目名	福祉用具と住環境	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具に関する知識を習得して支援に活用することができる力を育成する。 ・住環境の知識を習得して家族や利用者に改修に関する提案できる力を育成する。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具に関する基礎的な知識を習得し、支援に活用できる。 ・介護場面に応じて、福祉用具を選択し、それらを活用して支援技術を習得し、実践できる。 ・住環境に関する基本的な知識を習得し、支援に活用できる。 ・在宅や施設を問わず、利用者の生活の場となる住環境を評価し、介護場面に応じて改善を提案することができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○介護場面（移動・移乗・睡眠・起居・排泄・入浴・食事・コミュニケーション等）に応じた適切な福祉用具の選定や住環境の整備 ○福祉用具・生活支援機器・義肢装具・自助具などの種類と機能 ○利用者の障害の程度による機器の選定方法と、福祉用具を活用する際のリスクの理解 ○利用者の住環 	<p>(1日目)</p> <p>講義・演習(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会状況・地域包括ケアシステム ・高齢者の特徴と地域課題老化現象（個人ワーク）・（グループワーク） <p>講義・演習(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化 ・人口減少・貧困と孤立 ・高齢者が暮らす地域に向けた課題（個人ワーク（グループワーク） ・介護ロボット等 <p>講義・演習（5.3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行器・歩行器の種類・短下肢装具の紹介 ・行器・車いす・装具（SLB）段差体験 ・感じたこと・介助に必要なこと整理（グループ） ・福祉車両について ・まとめ（スロープの勾配）・発表 ・1日目の確認試験 <p>(2日目)</p> <p>講義・演習(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本家屋の問題点 ・居心地のよい住環境 ・手すりと段差 ・自宅の見取り図を作成しよう（個人ワーク）

<p>境の評価</p> <p>○利用者が自立生活を送るための障害の状況に応じた住環境の課題と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の図面の確認・詳細の情報収集 <p>講義(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅改修の流れ 住宅改修に関連した制度(介護保険)の詳細と種類 <p>講義・演習(5.3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の価値観の重要性・事例紹介・失敗例 ・目標設定に向けた面接・興味関心チェックシート ・動画の確認(歩行状態確認)・家でどのようにくらすか(目標)ADL・生きがい ・住宅改修計画・理由書作成 ・グループ内発表 ・2日目の確認試験 <p>(3日目)</p> <p>講義・演習(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具とは、車椅子の種類、名称、クッションの種類、簡易座位分類 ・普通型車いす、ティルト機能、リクライニング機能(座面の違い) ・感じたこと列挙(個人 or グループワーク) <p>講義・演習(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の問題・車椅子関連の知識、まとめ ・杖・車いすの調整(背張り調整六角ペンチ)(70分) <p>講義・演習(5.3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具貸与・特定福祉用具購入・福祉用具による支援の流れ(排泄関連用具、入浴関連用具、住宅関連用具、住宅設備機器(段差解消機、階段昇降機等) 特殊寝台について・姿勢・ポジショニング ・移乗に関連する福祉用具 ・通常移乗・スライディングボード・乗助さん・まとめ ・3日目の確認テスト <p>(4日目)</p> <p>講義・演習(4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助具とは ・自助具作成(箸・洗濯ばさみ、ソックスエイド、など)
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD（自助具の紹介） ・個人ワーク・自助具検討 <p>講義・演習(5.3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助具発表 ・コミュニケーション関連用具について ・まとめ ・4日目の確認試験
研修方法	<p>■集合研修</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p>
研修時間	30時間（集合研修 30時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）1日のプログラムのうち、始めの30分を超える遅刻、終わりの30分を超える早退であって120分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>○筆記試験は各回にて行い全体の合計点が、A～C評価（100点満点中60点以上）を合格とする。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。やむを得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	○認定介護福祉士について十分な知識を有し、講師等の教育経験を持つ者
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	受講要件無
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>③筆記試験にて100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。A～C（100点満点中60点以上）を満たしていること。</p>

(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名（演習時には2～3名の補助講師を配置する。）
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 30 年 6 月 20 日
	② 平成 30 年 6 月 21 日
	③ 平成 30 年 7 月 4 日
	④ 平成 30 年 7 月 5 日
開催場所 (会場)	①②③④三重県社会福祉会館 (三重県津市)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等 福祉用具と住環境 山本 泰雄氏 社会福祉法人あけあい会 支援室 リハビリテーション室長
	学歴 1998年3月 専門学校愛知医療学院作業療法学科 卒業 2013年3月 日本福祉大学福祉経営学部 卒業 2018年3月 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科 修了 職歴 1998年4月～2005年3月 特定医療法人暁純会 榊原温泉病院 2005年4月～2008年3月 社会福祉法人明合乃里会 介護老人保健施設あけのうリハビリテーション室主任 2008年4月～2016年3月 社会福祉法人明合乃里会 介護老人保健施設やまゆりの里リハビリテーション室課長 2016年4月～現在 社会福祉法人明合乃里会 支援室 リハビリテーション 室長 社会における活動 1998年4月～ (一社) 日本作業療法士会会員 2006年4月～ (一社) 三重県作業療法士会 理事 2006年4月～2015年3月 (一社) 三重県作業療法士会 事業部 2007年6月～2009年6月 (一社) 日本作業療法士協会生涯教育部生涯教育制度推進委員会 委員 2009年4月～ユマニテク医療福祉大学校作業療法学科 非常勤講師 2012年4月～三重県老人保健施設協会研修編集委員会 委員 2013年3月 三重県作業療法学会 学会長 2013年6月～ (一社) 日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会 委員 2015年4月～認知症ケア学会会員 2015年4月～ (一社) 三重県作業療法士会 地域リハビリテーション部

	<p>2015年4月～国立長寿医療研究センター 研究班員 「認知症の当事者・家族視点にもとづく療養指導のためのエビデンス構築研究」</p> <p>2015年4月～三重県リハビリテーション協議会 理事</p> <p>2015年4月～公益社団法人全国老人保健施設協会 認知症短期リハビリテーションプログラム ガイド改訂版 編集委員会 作業班 班員</p> <p>2017年5月～三重県介護予防市町支援委員会委員</p> <p>2017年10月～津市在宅療養支援センター事業マップ作成部会委員</p>
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(常勤:1名、非常勤:4名) 実行委員会事務局(担当事務局員、介護福祉士会事務兼務、常勤2名) 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	一般社団法人三重県介護福祉士会 会長
研修管理責任者氏名	大田 京子
機構問合先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
受講問合先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
受講問合先担当者氏名	森 聖志
受講問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	認定介護福祉士養成研修実行委員会
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子(会長)
管理担当者氏名	長谷川千恵子(三重県介護福祉士会 事務局兼務)

別紙 1

認定介護福祉士養成研修標準時間割表

領域：福祉用具と住環境に関する領域

科目名：福祉用具と住環境

(1日目) 平成30年6月20日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○利用者が自立生活を送るための障害の状況に応じた住環境の課題と対策	9:00~10:30	講義 高齢者を取り巻く社会状況・地域包括ケアシステム (30分) 演習・講義 高齢者の特徴と地域課題 (60分) ①自己紹介 ②老化現象(個人ワーク) (10分) ③老化現象(グループワーク) (10分) ④グループ発表 (20分) ⑤講義(老化) (20分)
		10:30~10:40	休憩
2		10:40~12:10	演習 ①人口減少・貧困と孤立 (10分) ②高齢者が暮らす地域に向けた課題(個人ワーク) (15分) ③高齢者が暮らす地域に向けた課題(グループワーク) (15分) ④発表(課題列挙・特性のまとめ) (20分) ⑤講義(地域課題・取り組み) (30分) ⑥介護ロボット等
		12:10~13:10	休憩
3	○福祉用具・生活支援機器・義肢装具・自助具などの種類と機能	13:10~14:40	講義 歩行器・歩行器のいろいろ・短下肢装具の紹介 (30分) 体験 歩行器・車いす・装具(SLB) 段差体験 (60分)
		14:40~14:50	休憩

4	14 : 50～15 : 50	演習 ①感じたこと・介助に必要なこと整理 (グループ) (30分) ②まとめ(スロープの勾配)・発表(30分) 福祉用具について
5	16 : 00～17 : 00	確認試験

(2日目) 平成30年6月21日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8 : 30～9 : 00	
1	○利用者が自立生活を送るための障害の状況に応じた住環境の課題と対策 ○利用者の住環境の評価	9 : 00～9 : 50	講義 日本家屋の問題点 (10分) 居心地のよい住環境 (30分) 手すりと段差 (10分)
2		9 : 50～10 : 30	演習 自宅の見取り図を作成しよう (個人ワーク) (20分) 相手の図面の確認・詳細の情報収集 (20分)
		10 : 30～10 : 40	休憩
3		10 : 40～12 : 10	講義 住宅改修の流れ 住宅改修に関連した制度(介護保険)の詳細と種類 (90分)
		12 : 10～13 : 10	休憩
4		13 : 10～14 : 40	講義 本人の価値観の重要性・事例紹介・失敗例 (20分) 演習 ①目標設定に向けた面接・興味関心チェックシート (40分) ②動画の確認(歩行状態確認)・家でのようにくらすか(目標)ADL・生きがい (30分)
		14 : 40～14 : 50	休憩

5		14:50~16:00	演習 ③住宅改修計画・理由書作成 (30分) ④グループ内発表 (40分)
6		16:00~17:00	確認試験

(3日目) 平成30年7月20日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○介護場面（移動・移乗・睡眠・起居・排泄・入浴・食事・コミュニケーション等）に応じた適切な福祉用具の選定や住環境の整備	9:00~9:30	講義 福祉用具とは、車椅子の種類、名称、クッションの種類、簡易座位分類 (30分)
2		9:30~10:00	体験 普通型車いす、ティルト機能、リクライニング機能（座面の違い） (30分)
3		10:00~10:20	演習 感じたこと列挙（個人 or グループワーク） (20分)
		10:20~10:30	休憩
4		10:30~11:00	講義 車椅子の問題・車椅子関連の知識、まとめ (30分)
5		11:00~12:10	体験 杖・車いすの調整(背張り調整六角ペンチ) (70分)
		12:10~13:10	休憩
6		13:10~13:40	講義 福祉用具貸与・特定福祉用具購入・福祉用具による支援の流れ (30分)
7		13:40~14:10	体験 特殊寝台について・ポジショニング・ (30分)
8		14:10~14:40	体験 移乗に関連する福祉用具 (30分)
	14:40~14:50	休憩	

9		14:50~15:50	体験 通常移乗・スライディングボード・乗 助さん(60分)
10		15:50~16:00	まとめ
11		16:00~17:00	確認試験

(4日目) 平成30年7月5日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○利用者の障害の程度 による機器の選定方法 と、福祉用具を活用する 際のリスクの理解	9:00~9:30	講義 自助具とは
2		9:30~10:30	体験 自助具作成(箸、洗濯バサミ、ソックス スエイド、など)
	○介護場面(移動・移 乗・睡眠・起居・排泄・ 入浴・食事・コミュニケ ーション等)に応じた適 切な福祉用具の選定や 住環境の整備	10:30~10:40	休憩
3		10:40~10:50	講義・DVD 自助具の紹介
4		10:50~12:10	演習 個人ワーク・自助具検討
		12:10~13:10	休憩
5		13:10~17:00	演習 自助具発表